

『長門市新庁舎の顔づくり』

設計成果報告書



長門市

はじめに

長門市では、平成27年4月に策定した「長門市庁舎建設基本構想」に基づき、平成28年3月に、「長門市庁舎建設基本計画」策定しました。

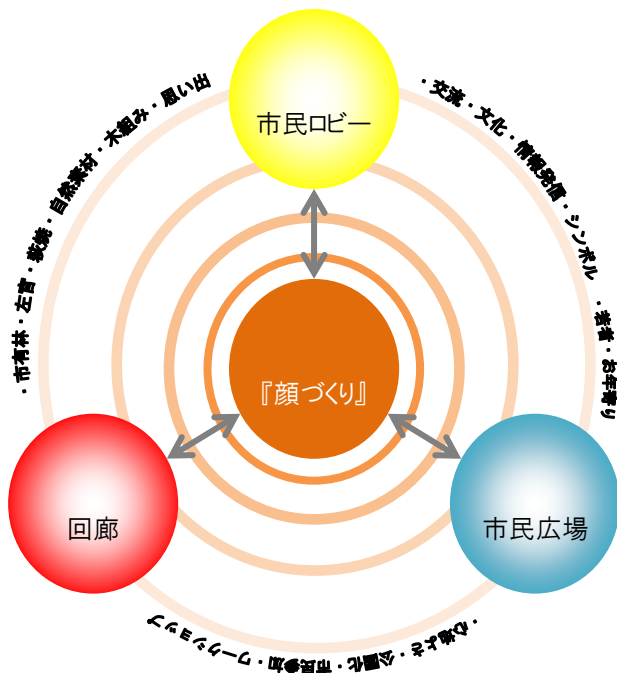
策定にあたっては、市民ワークショップ、長門市庁舎整備検討委員会やパブリック・コメントなどで頂いたご意見を参考にしています。

そして、庁舎の顔である玄関部分について、市民に広く親しまれる空間として、『長門市新庁舎の顔づくり』と捉え、ヒアリング会を開催し、市民の皆様から貴重なご提案を頂きました。

このヒアリング会で得られたアイデアを設計に盛り込み、『長門市新庁舎の顔づくり』計画としています。



ヒアリング会で得られた提案のまとめ



- 木組みを用い、長門の文化表現を施します。
- 防災時の対応も可能で、市民に広く親しまれ、集える場としてオープンスペースを設けます。
- 地元の素材(土や木)を使って、遊具やベンチなどの整備を施します。
- ワークショップを行い、子供たちと一緒に作り、思い出となる公園を目指します。
- 緑地帯を設け、心地よい場所となるようにします。

顔づくり計画概要

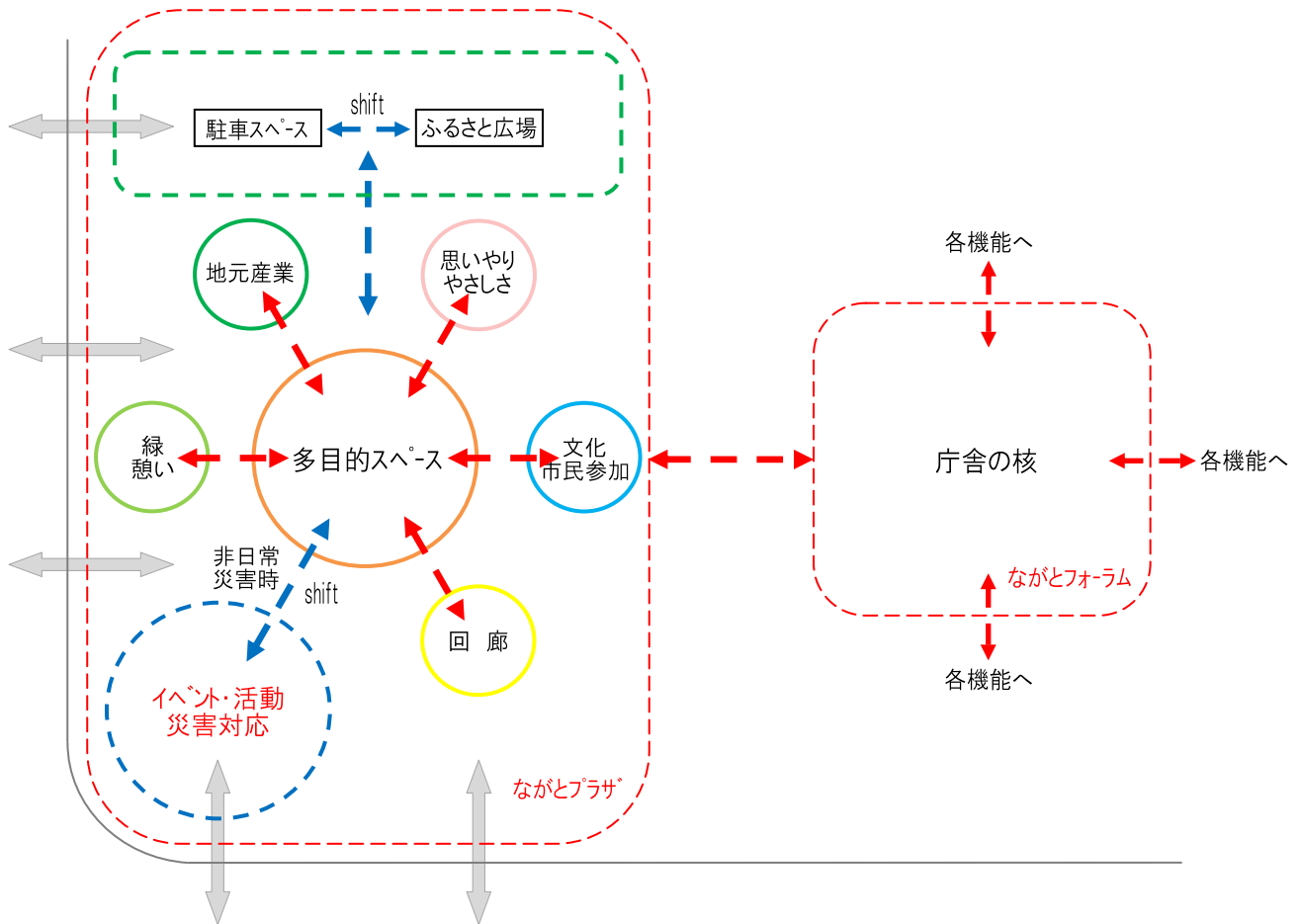
■ 長門の自然と文化に包まれた『ながと』らしさを体現する広場

—「やさしさ」「交流」「憩い」「長門らしさ」を感じさせる、親しみやすい市民のための空間—

- ・小さなスケールの建物に囲まれた親しみやすい広場空間
- ・連続性、一体性のある空間づくり+長門らしさの建築化
- ・広場を囲う半屋外空間=『長門文化回廊』
- ・庁舎の核となる『長門フォーラム』への導入空間
- ・災害時には多機能防災広場として機能

新庁舎の顔づくり
↓
『ながとプラザ』

■ ダイアグラム図



■ 駐車スペース・ふるさと広場ゾーン

- ・通常時は「駐車スペースとして、来館車両を迎え入れる
- ・イベント時には「ふるさと広場」として
- ながとプラザの一部となり、一体的に利用可能

■ 地元産業ゾーン

- ・地元産業の発信の場として、ジオパークベンチ等設置
- ・利用者の交流の場として、バスの待合としても利用できる
- ・軒下空間として雨よけ、陽よけ機能

■ 緑・憩いゾーン

- ・子どもたちの遊び場や憩いの場となる緑地帯
- ・緑地帯は、サブエントランス側から駐車場側へと連続させる

■ 多目的スペースゾーン

- ・「ながとプラザ」の中心として、多目的に利用可能な広場
- ・段差のない緩やかな丘の広場(市民広場)
- ・イベント時には多目的に市民ロビーと一体的に利用
- ・災害時は多機能防災広場としてシフト

■ 思いやり・やさしさゾーン

- ・車寄せ、思いやり駐車場とし、軒下空間とする

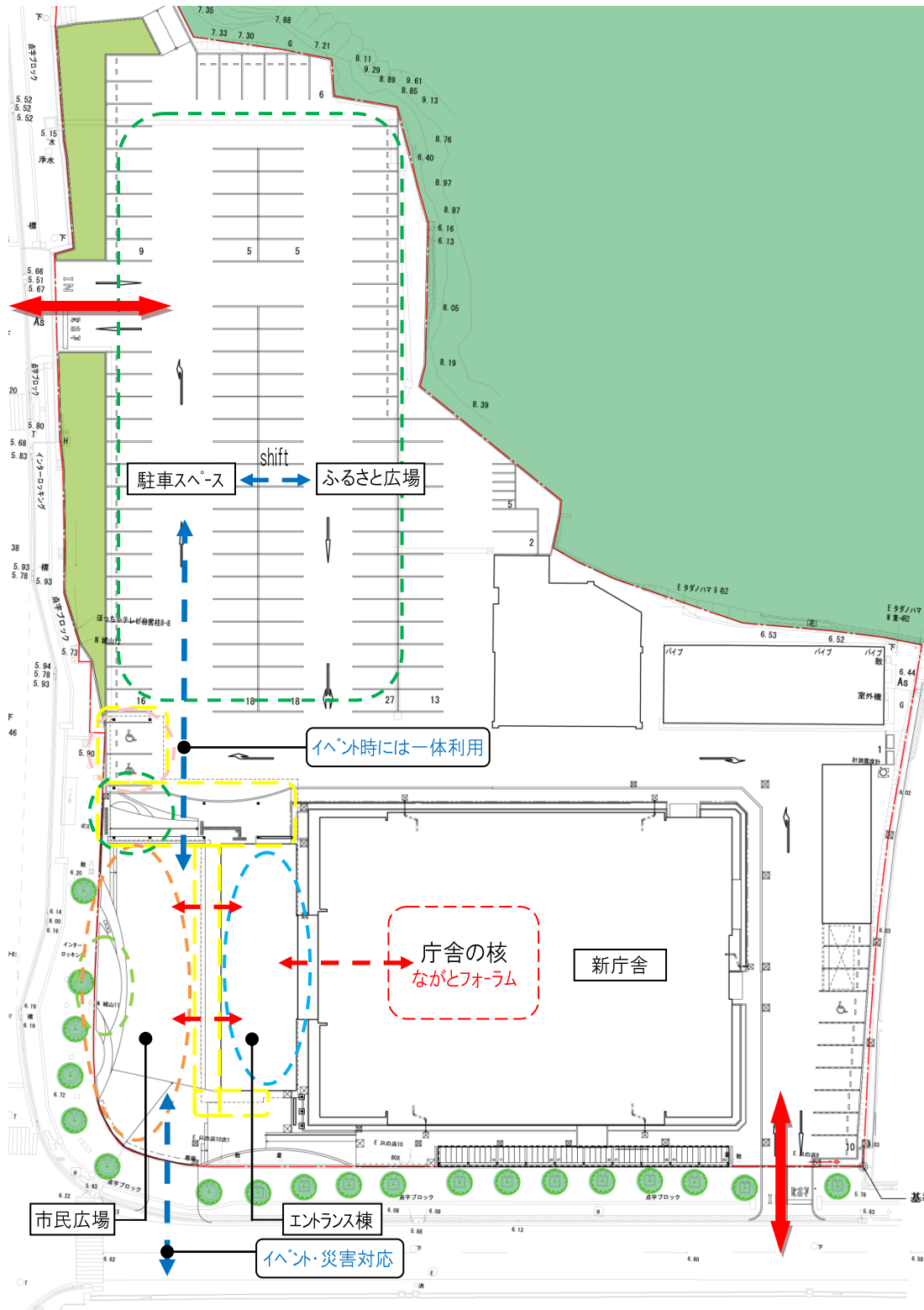
■ 文化・市民参加ゾーン

- ・壁面等を利用し、長門市の文化を表現
- ・情報発信コーナーや展示コーナーを設け、市民の交流の場とする

■ 回廊ゾーン

- ・長門文化回廊として内外を繋ぐ、中間領域
- ・市有林の木材を連続的に配置し、回廊としての流れを創出

■ゾーニング図



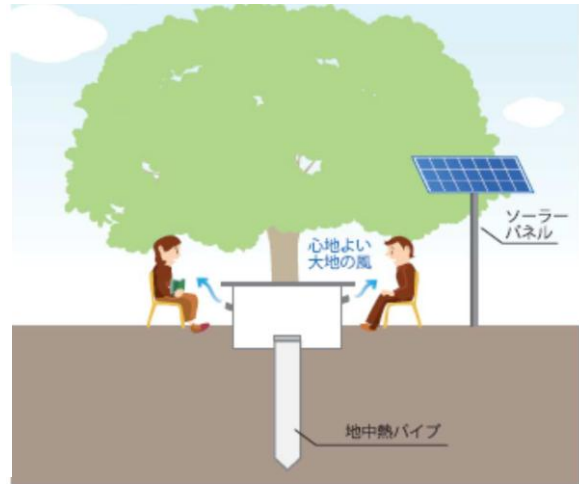
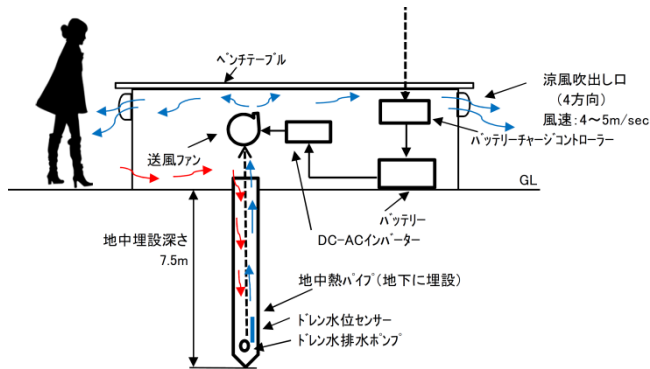
- 各ゾーン凡例：
- 地元産業
 - 思いやり
やさしさ
 - 緑
憩い
 - 多目的
スペース
 - 文化
市民参加
 - 回廊
 - 駐車場
ふるさと広場

各ゾーンの計画概要

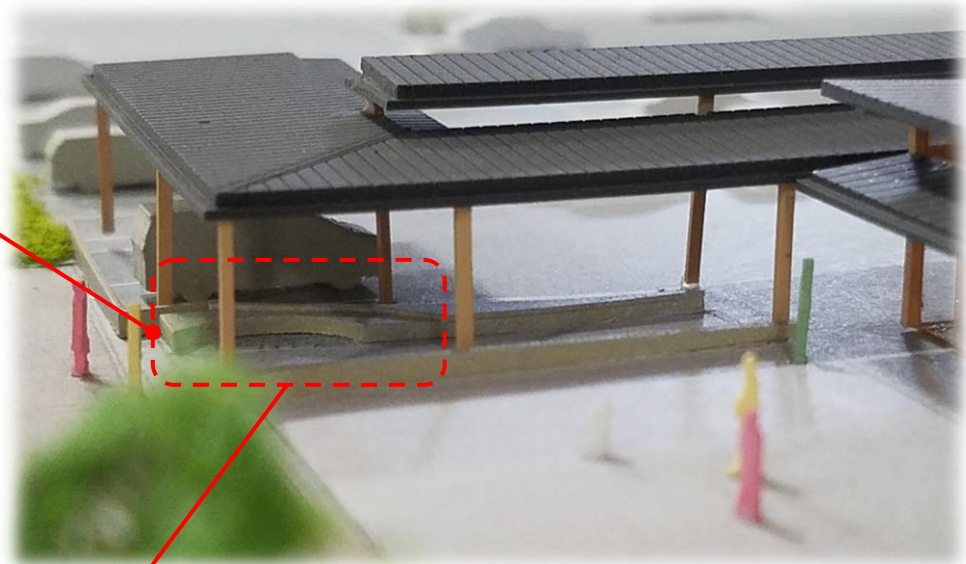
地元産業

地元産業の発信の場として、回廊内のバス停に近い場所に、地中熱換気システム(ジオパワー)を設置します。地熱は、一年中を通じて安定した温度を保ち、「夏涼しく、冬温かい」風を供給してくれます。バスの待合の場として、また、市民のコミュニティーの場としても期待します。

■ 地中熱換気システムイメージ



地中熱換気システム
設置場所



長門市産の桧材で作られた縦格子
の隙間から、地熱の風が吹き出てる

思いやり
やさしさ

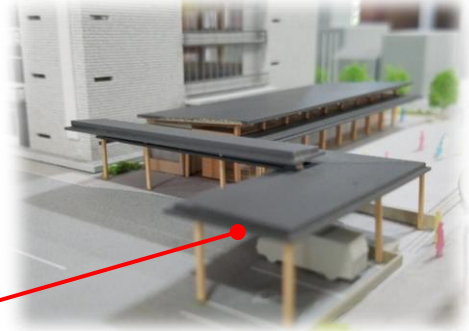
思いやり駐車場は、メインエントランスまでの動線は回廊ゾーン(軒下)を經由し、雨に濡れずに訪れる事の出来る『やさしさ』に配慮した計画としています。回廊の天井は長門市産の桧を張り、来館者をやさしく迎え入れる計画としています。



メインエントランス

回廊に包まれた
軒下空間

天井は長門市産
の桧を使用する
やさしい空間
(回廊)



緑
憩い

子どもたちの遊び場や憩いの場となる緑地帯。芝に代わるグランドカバーは、素足にもやさしい植物として、緑のじゅうたんと言われる「ヒメワタレソウ」を植え付け、市民広場と一体的に利用できる、憩いの場とします。また、道路との境界には積極的に緑を設けています。

■グランドカバー『ヒメワタレソウ』イメージ



子どもたちの遊び
場となる緑地帯



●西側道路境界線の緑地帯



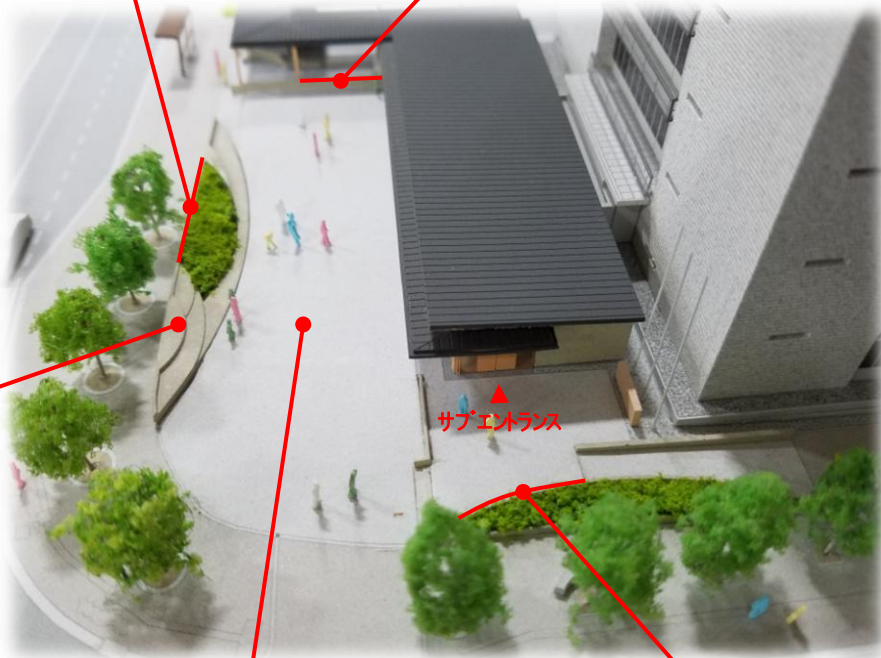
●南側道路境界線の緑

多目的
スペース

多目的に利用可能な広場として、『顔づくり』の中心となる場。イベント時等は、エントランス棟(文化・市民参加ゾーン)と一体的に利用することができ、建物内外で機能的にも繋がる。市民広場の舗装面は、部分的に版築ブロックを敷設する。市民参加の一環として、子供たちを対象にワークショップを実施し、作製する予定。また、広場を囲う擁壁の一部には、金子みすゞの詩が刻まれたガラスアートを設け、長門市の文化を発信します。

ガラスアート設置場所

ガラスアート設置場所

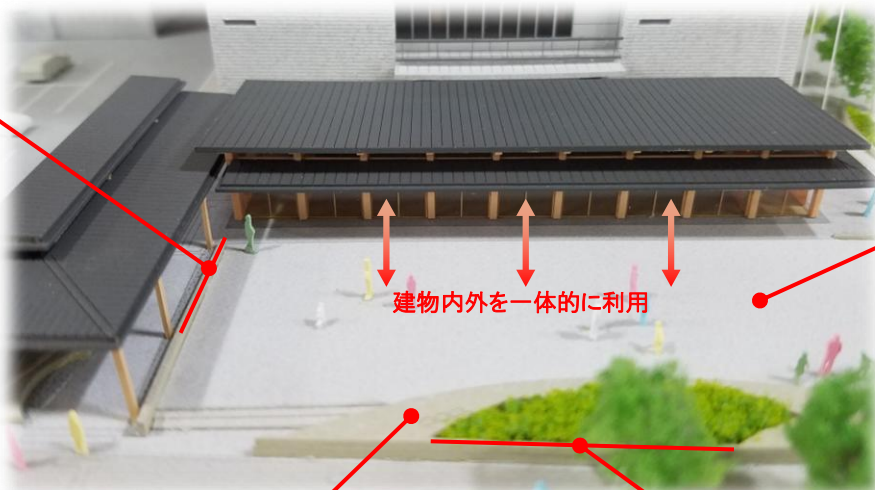


棚田をイメージした
左官仕上のベンチ
また、防災時の釜
土機能も備える

版築ブロックを
部分的に敷設

ガラスアート設置場所

ガラスアート設置場所



版築ブロックを
部分的に敷設

建物内外を一体的に利用

棚田をイメージした
左官仕上のベンチ

ガラスアート設置場所

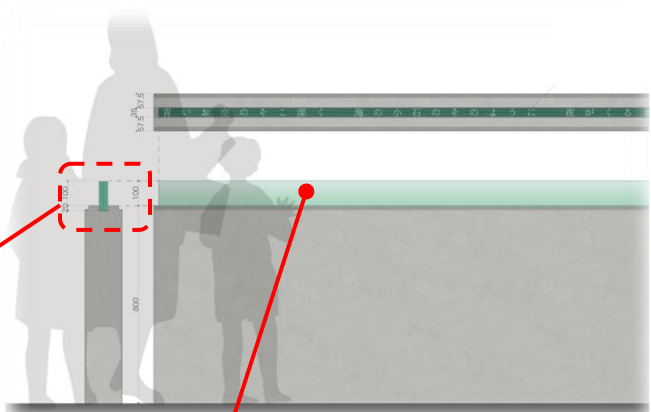
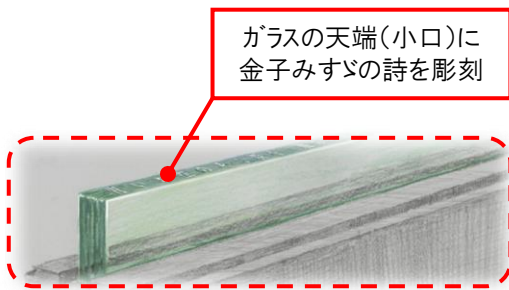
■ 版築ブロックイメージ



- 子供たちの想う長門らしさのイメージを色にして、ランダムに敷設する。
海=『青』、山=『緑』など。

- ワークショップを実施し、子供たちの思い出の庁舎、長く愛される庁舎を目指します。

■ ガラスアート イメージ



- 外構擁壁の設えの中に、金子みすゞの詩を取込み、建築自体が、長門市の文化を発信するように 整備します。

子どもの身長に合わせた高さ設定

文化
市民参加

長門市の文化を表現する場。内装(壁・天井)には長門市産の桧材をふんだんに使用し、やさしく室内空間を包みます。
建物の内外壁面には、地元の左官技術を取り入れ、特殊な土塗り壁を施します。
木や土。自然の素材をふんだんに使用することで、親しみやすい空間とします。
また、長門市の文化表現として、各階ロビーの壁面の一部に萩焼深川窯による陶壁を設けます。

構造材、天井材は長門市産の桧材を使用
やさしく室内空間を包む

地元の左官技術にて施す土塗り壁

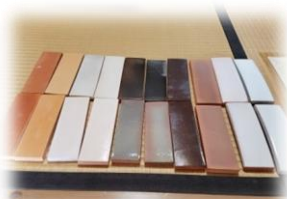


建物内外を一体的に利用

地元産業として、シイの木フローリングを採用

●企画、展示等のイベントが定期的に行えるようにします。
また市民広場との連続性・一体性のある空間として、市民の為の『市民ロビー』とし、市民活動空間とします。

■萩焼深川窯の陶壁イメージ ※各階ロビー壁面に設置



●萩焼のサンプル
色合いやテクスチャーの変化により様々な表現を醸し出す。



●陶壁のイメージ
萩焼の作品として主張するものではなく、建築仕上の一部として建物に同化し、親しみやすい空間づくりを目指します。

まとめ・完成予想図

■新庁舎の顔づくり計画の整備方針として、庁舎の顔となる空間を『親しみやすい市民の為の空間』と捉え、市民広場を中心に、各テーマ(機能)を持たせたゾーンを配置しました。

庁舎という用途でありながらも、市民の交流や憩いの場であり、また長門のアイデンティティを感じさせる要素を建築計画に反映しています。

建築、外構等を含めた庁舎自体が観光情報を発信する機能を担う事を期待しています。

■市民広場(多目的スペース、回廊、緑・憩いゾーン)



■駐車場・ふるさと広場(思いやり・地元産業・回廊ゾーン)

